

残月記

著者名：小田雅久仁
出版者：双葉社

「俺は突然わけもわからないうちに何もかもを失って、一人になった！」不遇な半生を送ってきた男がようやく手にした、家族というささやかな幸福。だが赤い満月のかかったある夜、男は突如として現実からはじき出される（「そして月がふりかえる」）。

ことことこーこ

著者名：阿川佐和子
出版者：KADOKAWA



離婚して老父母の暮らす実家に戻った香子。専業主婦を卒業し、フードコーディネーターとしての新たな人生を歩み出した矢先、母・琴子に認知症の症状が表れはじめる。弟夫婦は頼りにならず、仕事も介護も失敗つづき。

三千円の使いかた

著者名：原田ひ香
出版者：中央公論新社



就職して理想の一人暮らしをはじめた美帆（貯金三十万）。結婚前は証券会社勤務だった姉・真帆（貯金六百万）。習い事に熱心で向上心の高い母・智子（貯金百万弱）。そして一千万円を貯めた祖母・琴子。御厨家の女性たちは人生の節目とピンチを乗り越えるため、お金をどう貯めて、どう使うのか？

塞王の楯

著者名：今村翔吾
出版者：集英社

幼い頃、落城によって家族を喪った石工の匡介。彼は「絶対に破られない石垣」を造れば、世から戦を無くせると考えていた。一方、戦で父を喪った鉄砲職人の彦九郎は「どんな城も落とす砲」で人を殺し、その恐怖を天下に知らしめれば、戦をする者はいなくなると思っていた。

同志少女よ、敵を撃て

著者名：逢坂冬馬
出版者：早川書房

独ソ戦、女性だけの狙撃小隊がたどる生と死。驚愕のデビュー作。第11回アガサ・クリスティ賞大賞受賞作。

シルバー川柳ベストセレクション

著者名：全国有料老人ホーム協会 ポプラ社編集
出版者：ポプラ社



「シニアあるある」を楽しく詠んだシルバー川柳の傑作選！20年間の入選作から選りすぐりの100句をお届けします！

永田町動物園 日本をダメにした101人

著者名：亀井静香
出版者：講談社



安倍晋三を一喝し、小沢一郎に恐れられた日本政界最強の男が猛獣たちのウラのウラまで手加減なしに書き尽くす。

さよならも言えないうちに

著者名：川口俊和
出版者：サンマーク出版

「最後」があるとわかっていたのに、なぜそれがあの日だと思えなかったんだろう。「君のおかげで僕が幸せだったことを、君に知っててほしかった」家族に、愛犬に、恋人に会うために過去に戻れる不思議な喫茶店フニクリフニクラを訪れた4人の男女の物語。

約束

著者名：葉室麟
出版者：文藝春秋



浩太、舜、冬実、美樹の高校生4人は、交差点で雷に打たれ、目覚めると、明治維新直後の時代に転生していた。西郷隆盛、大久保利通、勝海舟ら、近代史の立役者たちの側で、激しい歴史のうねりに巻き込まれる若者たち。生きた「日本史」の授業の始まりだ。没後に発見された“幻のデビュー作”が文庫で登場！

ミチクサ先生上

著者名：伊集院静
出版者：講談社

伊集院静がずっと共鳴し、いつか書きたかった夏目“漱石”金之助の青春。夏目家の「恥かきっ子」金之助は生まれてすぐに里子に出されたり、年老いた父親にガラクタ扱いされながらも、道楽者の祖父の影響で子供ながらに寄席や芝居小屋に入り浸る。学校では異例の飛び級で頭角をあらわし、心のおもむくままにミチクサをして学校を転々とするように。

ミチクサ先生 下

著者名：伊集院静
出版者：講談社

英語教師として松山で子規と過ごした金之助は、次に赴任した熊本では鏡子を迎えて新婚生活が始まる。英国に留学している間に子規は亡くなり、帰国すると帝国大学の教師に。高浜虚子から子規ゆかりの句誌「ホトトギス」に小説を書いてほしいと頼まれ、初めて書いた小説「吾輩は猫である」が大評判に。

挑戦 常識のブレーキをはずせ

著者名：藤井 聡太，山中 伸弥
出版者：講談社

史上初10代四冠達成！まだ誰も見たことのない景色を見るために。雨に文句を言っても仕方ない、異分野の知に触れる、発想のチャンスは身近にもある、相手が誰でも意識しない、AIで自由度が上がるe t c. 日々努力を続ける人へ贈る言葉。

ゆすってごらんりんごの木 ふってまわしてあそぶえほん

著者名：ニコ・シュテルンバウム
出版者：サンマーク出版

ページをめくるたびに、びっくりぎょうてん。本をふって、ゴシゴシこすって、まわしてごらん！コンコンたいて、プーってふいて、おしてみよう！りんごの木、くすぐりおばけ、びしょぬれねこ、うさぎのかぞくがどうなるかな？ページをめくると、こたえがわかるよ。ほら、本をあけてみたくなかったでしょ？さあ、すぐにやってみよう！

漫画 サピエンス全史 文明の正体編

著者名：ユヴァル・ノア・ハラリ ダヴィッド・ヴァンデルムーレ
出版者：河出書房新社

何種ものヒトのなかで唯一生き延びたホモ・サピエンス。世界各地に進出し、狩猟採集民から農耕民へと変わった彼らを待ち受けていたものとは？そして、古代メソポタミアからアメリカ合衆国まで、サピエンスが大規模な社会・国家・文明を築きあげることを可能にしたものとは？この世界がどのように形づくられていったかという謎に、さまざまな角度から光を当てて、明らかにする。

おわかれはモーツァルト

著者名：中山七里
出版者：宝島社

2016年11月。盲目ながら2010年のショパン・コンクールで2位に入賞したピアニスト・榊場隆平は、クラシック界の話題を独占し人気を集めていた。そんなある日、「榊場の盲目は芝居ではないか」と絡むフリーライター・寺下が何者かに銃殺される。事件は深夜、明かりの消えた室内で起きた。そんな状況下で殺人ができるのは、生来暗闇の中で暮らしてきた榊場だけだと警察は疑わない。

剛心

著者名：木内昇
出版者：集英社

天涯孤独の身で17歳にして単身渡米。帰国後、その力量を買われ、井上馨の官庁集中計画に参加。御一新前の美しい町並みを愛し続けた妻木は欧化一辺倒の都市計画に反発、西欧の新しい技術に学んだ“江戸の再興”を心に誓う。いくつもの難局を乗り越え、国の未来を議論する場としての国会議事堂の建設へと心血を注ぎこんでいく—「いい街にするよ、必ず」。

うさぎじかん

著者名：刀根里衣
出版者：NHK出版

主人公は6匹のうさぎファミリー。雪がふったり、木々が色づいたり、やさしい風がふいたり、季節や場所は移りかわっていきますが、うさぎたちはいつなんどきもマイペースです。そうしたじかんと「うさぎじかん」と名づけてみました。うさぎたちのつぶやきが、どこからか聞こえてきませんか？「あせらず」「ゆっくり」「自分らしく歩いていこうよ」ってね。